



諏訪本 光 議員

Q 熊野町のスポーツ活動の現状及び今後の方向は

A 町長

町民体育館等の指定管理者である「NPO法人熊野健康スポーツ振興会」と連携して振興を図っている。

〔Q1〕 「総合型地域スポーツクラブ（以下総合型クラブ）」の先進地である本町の活動は、その趣旨を満たしていない。「スポーツ推進委員」の活動にも課題があると考える。また、昨今話題の「運動部活動改革」への対応準備が必要だ。町当局の考えは。

〔A1〕 「ビーチボールバレー」等のように「総合型クラブ」の多世代、多志向の趣旨に沿った活動をしている。

〔A2〕 「スポーツ推進委員」は、総合型クラブである「筆の里スポーツクラブ」の活動の支援・協力をしながら共にスポーツ事業を推進している。

〔A3〕 「運動部活動改革」は国の動向を注視して検討したい。

〔Q2〕 「総合型クラブ」の趣旨に沿った活動は一部でしかない。その他の事業も含め、町の考え方や方針に沿った運営ができていくか。また、それはどのように伝えているか。

〔A2〕 NPO法人と月一回以上連絡調整会議を開催して、意思の疎通を図っている。

〔Q3〕 本日の提議した課題等を踏まえ、基本となる「熊野町スポーツ振興計画」を早急に策定すべきではないか。策定予定から10年以上が経過している。

〔A3〕 本年度末を目処に策定したい。



竹爪 憲吾 議員

Q コロナ禍における町民の健康状態の変化は

A 町長

健診は受診率が低下、フレイルや要介護状態を引き起こすことも危惧される。

〔Q1〕 コロナ禍での健康診断等の受診率の変化は。

〔A1〕 集団健診の中止や健診控えにより、受診率は低下した。

〔Q2〕 健康診断の受診を促す取り組みはされたか。

〔A2〕 幅広い世代の基本健診、がん検診を医療機関で受診できる体制を整えた。

〔Q3〕 介護状況の変化は。

〔A3〕 介護サービス利用状況は、通所介護等外出を伴うサービス利用は減少、訪問介護等は利用が増加している。介護認定率は、変動が少ない。

〔Q4〕 介護認定される以前の高齢者の状況は。



〔A4〕 定期的に運動機能の調査を行っている方のデータでは、様々な項目で機能が低下している。フレイル、要介護状態になるリスクが高くなっている。

〔Q5〕 リスクの増加を解消するための取り組みは。

〔A5〕 町主催事業やシルバリーハビリ体操指導士の活動を通じて、各教室、講座、大会を開催し、社会参加に重点を置いて、様々な事業を展開する。



尺田 耕平 議員

Q 大人のひきこもり対策は

A 町長

ますます拡大していく問題として認識しており、町としてしっかり対策をとっていく。

〔Q1〕 厚生労働省のひきこもり支援事業では、平成30年度より市町村においてひきこもりサポート事業として、ひきこもり支援基盤を構築し、社会参加に向けた支援を図るため、相談窓口の周知や実態把握、居場所づくり、ひきこもりサポーターの派遣等を行っているところがあるが、実施状況は。

〔A1〕 実態把握については、相談があったもの以外の把握は難しい。地域包括支援センター、民生委員など関係機関と連携し把握に努める。

〔Q2〕 住民に対し気軽に相談できるよう「ひきこもり相談窓口」を明確化し、広く周知しても

〔A2〕 国は市町村に対し、ひきこもり相談窓口の明確化・周知に取り組むよう求めている。まだまだ十分ではないので、町ホームページ・町広報への折り込みチラシ等で周知し、案内板を掲げるなどの工夫を明確化に努める。

〔Q3〕 8050問題・9060問題は本町でも耳にするが対応は。

〔A3〕 手遅れになる前に、家族などの理解や協力が必要であり、関係機関と連携を取りながら支援を行っていく。